

山行番 NO. 1653
日時 2015. 07. 31 (金) ~ 08. 03 (月)
山域 北アルプス・槍ヶ岳 (3180m)
参加者 後藤、千葉、浜道、掛橋、長谷 = 5名

07. 31 (金・先発・後藤のみ)

下土狩 9:30 - 新穂高 14:00 - 深山荘・鍋平駐車場偵察 - 栃尾「栃尾荘」16:00
(泊)

暑い中、早朝発は厳しいので、一人先発。車は千葉のジムニーを借りた。途中、諏訪湖 SA で昼食。トンカツ定食を食べた。飯が非常に不味かった。あまり高速 SA 食堂は利用しないが、こんな酷い飯を出しているのだろうか？

安房トンネルを潜り、今日の宿「栃尾荘」を確認し、新穂に駐車場の確認に行く。深山荘周辺の無料駐車場は、下って帰る登山者もいて空きスペースはあった。しかし、明日は土曜日なので、分からない。次に新穂の有料を偵察。ここもほぼ一杯だった。バスターミナルに近いので利便性はいい。ただ、明日空きがあるかどうかは不明。次は、鍋平を偵察。新穂高は何回も来ているが、ここは利用したことはない。

ここはトイレがある下は以前からある。しかし、上は登山者が増えて最近作った。駐車場はバラスを入れただけ。前回、2011. 07. 23 (土) は、深山荘の無料が使えた。朝来たが空はあった。鍋平も既に半分埋まっているので、明日は厳しそう。その旨を本隊に伝える。本隊は危機感を持ち、結局、今夜来ることになった。従って、皆と明朝、鍋平合流する。

「栃尾荘」は、この辺りでは老舗民宿だった。聞けば、笠ヶ岳経営という。確かにネットを見たら、連絡先になっていた。宿泊客は、黒部五郎岳で百名山が終わった、という年配の女性と同伴の男性のみ。静かで良かった。夕食時、山・巡礼話で盛り上がった。宿泊費は、8650-。まあまあだが、ここも飯が異常に不味かった。特に私がいつも美味しい米を食っている訳ではない。だが、安い米でも炊き立てなら美味しい。こんな不味い飯でよく金を取れると、変に感心。ほか、女将の対応も、泊めてやる風でイマイチだった。



1日目

08.01 (土・無風快晴)

鍋平合流 6:53 - 新穂バスターミナル回送 8:00 - 鍋平から新穂高に徒歩 - 新穂高発 8:46 - 穂高平 9:39 - 白出沢 (しらだしさわ) 10:34 - チビ谷 11:34 - 滝谷 12:11 - 槍平 13:15 (泊)

標高差 新穂高約1100m ~ 槍平小屋約2000m = 約900m

いつかは槍ヶ岳へ。

私が登山を始めてから、遠くに槍ヶ岳が見える度に、いつかは行ってみたいとずっと思っていた。ついに槍ヶ岳に行けるので「まんて」楽しみにしていた。「まんて」は今NHKで放送されている「まれ」の石川県の言葉、私は石川県出身です。まんての意味：とても、すごく)

金曜日、浜道さんからメールが届いていた。仕事の休憩中、直ぐに、浜道さんと連絡を取った。新穂高の駐車場がいっぱいになる可能性があるからなるべく早く出た方がいいとのこと。今晚なら、何時に登山準備をして家を出ることができるか？とのことだった。私は22時と答えた。仕事が終わって、帰りの車の中で、出発までは1時間、何かやらねばいいか段取りを考えながら運転した。帰ってからは、大変慌しかった。テント泊なので荷物は更に多かった。とにかく必要なものをザックに詰め込み、急いで家を出たが、予定の22時を少し過ぎてしまった。(すみません)その後、長谷さんと合流し、千葉君が運転する後藤車で、約5時間のドライブとなった。

駐車予定の新穂高下の無料の駐車場は夜中にも関わらず、既に満車だった。係りの人がいて鍋平に行くように促されるが、念のため、新穂高の駐車場に行ってみた。24時間営業の所は満車、朝から営業する所は、登山者の駐車は出来ないとなっていた。仕方なく、鍋平の駐車場に向かった。ここもトイレのある下の駐車場は満車だったので、その上の駐車場にようやく車は落ち着いた。満月が美しく、明るく感じた。今日は、ブルームーンだった。慣れない車中泊で、いつの間にか寝ていたが、何度も目が覚めていた。

辺りが明るくなって、他の登山者達は動き出していた。後藤車の中はまだ静かだったが、間もなくこの車の中も動き出した。私は、昨日、慌しく家を出たので忘れ物が気になっていた。昨日詰め込んだ荷物を確認しながら、改めてパッキングのし直しをした。案の定、ストックと昼食用のパンを忘れていたことに気づいた。だが、浜道さんからの朝食の差し入れの焼きおにぎりで私の昼食一食分が補われた。(感謝です。ありがとうございました)

程なくして、前泊の千葉君の車を使用していた後藤リーダと合流した。私の荷物は想定外のコップとテント用のポールが追加された。私の荷物は何キロになったのかが不安だったが、自分で背負えたので大丈夫だと思った。そして、後藤車で私たち女性3名は新穂高登山口まで送ってもらった。千葉さんは、駐車場確保で現場に残った。後藤さんは車を回送し、登山口の新穂高駐車場まで二人が来るまでに30分は掛かるであろうと、少し余裕がもて、私たち女性陣は、これから始まる山行に気持ちを引き締めて、心の準備も整えて二人の到着を待っていた。

二人が到着すると直ぐに今日からの山行が始まった。新穂高ロープウェイ駅を過ぎて、しばらくは、ダム建設用の車道を歩くいていた。途中の夏山用のショートカットの山道で、私はアブ？に手を刺されてしまった。患部はすごく腫れてしまい、薬を塗ってもらったが、痛みもなかなか治まら



鍋平駐車場



新穂バスターミナル



穂高平の牛乳



白出沢



滝谷



槍平テシ場

らなかった。(腫れが引いたのは下山後、山の虫は恐ろしい)程なく、穂高平小屋に到着し、みんなは牛乳を飲んだ。(300-)濃厚でお代わりをしたいほど美味しいらしいが、もともと牛乳が得意でない私には美味しさが分からず、残念だった。奥穂高への分岐を過ぎて、順調に工事中の白出沢に着いた。ここには登山者用のトイレと休憩場所があり、水が美味しかった。

ここの橋を渡ると、ようやく登山道になった。誰が刈ってくれるのか、下草が綺麗に刈られていて、この道は歩き易かった。途中、樹林帯の切れ目から見える笠ヶ岳が美しかった。何度も足を止めて笠ヶ岳を仰いだ。今日は快晴だった。気温は多分高いが、樹林帯の日陰が有難い。チビ谷を過ぎた。滝谷の上部には雪溪が見えた。水が豊富に流れていた。その奥の北穂高方面の山の雄姿が美しかった。ここまでくれば槍平小屋までは、もうひと頑張りだった。

槍平小屋に着いて、テント場に行くと既に半分くらい埋まっていた。受付番号は13番だった。高校生の団体もやってきて、テント場はカラフルな色で覆われた。飛騨沢でビールを冷やし、足を冷やすが、冷たくて1分もつけていられなかった。それ程冷たいのに、高校生は川で遊んでいた。若い男子はまだまだ元気なようだった。

夕食では、後藤さんがニンニクたっぷりの飛騨牛ステーキを用意してくれていた。私はワインを持って来ていたのでそれと一緒に美味しく頂いた。テント場からの夕暮れの美しい景色の中、小屋泊の二人と合流し、しばらくおしゃべりを楽しむが、山の夕方は日が蔭ると直ぐに寒くなり、二人は小屋に戻っていった。私たちテント泊組もテントに入り、ビールが無くなった頃に眠りについた。

その他の記述(後藤)

1. 新穂高は、冬の中崎尾根~槍、北鎌尾根~槍を含め、相当回数利用だが、鍋平駐車場利用は、初めてだった。鍋平から歩いて新穂まで下ったが、道を間違えたり(他パーティーも)、余りの長い下降に驚いた。後で分かったが、鍋平からロープウェイ(400-)を利用が賢い。帰りの車回収時は、ロープウェイを利用し、正解だった。
2. 白出沢は、「木目調」超立派な堰堤を建設中。従って、登山者に水場・トイレ・休憩場など、いつもはない便宜を図っている。しかし、こんな山中に「木目調」の堰堤は、必要だろうか??
3. 新穂高~槍平は、前回、2011年「事件」(??)があり鬼門だった。「まさか、また・・・」が頭をかすめたが、無事上れて良かった。(笑い)

前回の記録=http://outdoor.geocities.jp/takanori_reihou2222/37.pdf

4. 皆さん、アブとか虫に食われたが、私は裸足だったが、全く問題なかった。一説には「老人臭」が利いたらしい??!!(ホント・ウソ)
5. 登山道整備は、多分、槍平小屋で下刈りをしてくれたと思う。有難いことです。ここの道は、午前中、日陰だし、なだらかな上りで、歩き易い。下刈りも、花は避けて刈ってある心づかい。
6. 藤木レリーフを過ぎて、しばらく上ると、飛騨沢が大きく開けた地点に出る。ここから、かつて飛騨沢が氷河であったことがよく分かる。V字谷から、U字谷に変わり、懸垂氷河が架かり、槍平の内院に至る。子供たちにこの状況を説明すれば、喜ぶでしょう。



飛驒牛ステーキ



交流会



夕食



檜平小屋



以上